

学童指導員及び子どもの放課後を支援する 人のための研修事業

特定非営利活動法人 子どもパートナーズ HUG っこ
〒811-3135 福岡県古賀市小竹 2-5

助成事業の概要

本事業では、主として学童保育指導員等、子どもの放課後の居場所づくりや育成支援に関わる人に対して、各種専門家の講演や相談や専門家を交えた学童保育所同士で交流等、指導員にとって身近で参加しやすい学び（研修）の場を提供し、学童保育所等の子どもの放課後の居場所が、その成長・発達を保障する場となることを目的とする。

◇子どもをみるまなざしを豊かにする連続講座
年間 5 回

「子どもって何者だろう？～大人と子どもの関係を問い直す」(1) 東海大学名誉教授山下雅彦氏
「学童保育の現場で生きる！発達と遊びの理論&実践講座」(2)～(5) 北九州市立大学教授山下智也氏 北九州市立大学院・学童支援員鍋倉功氏

◇学童支援員学習会 年間 10 回

それぞれの現場で気になることや困っていることをケースとして持ち寄り、講師（放課後児童支援員 学童保育協会理事等）のアドバイス、ファシリテーターによるワークショップなどにより、課題解決やスキルアップを図る。

事業の成果

- ・講演会 5 回 参加者数 143 人
- ・学習会 10 回 参加者数 84 人
(感染予防のため参加人数制限)

「子どもリスペクト運動」が印象的な山下雅彦氏の講演会では、子どもの権利条約の新しい子ども観と、「対話」が切り拓く子どもと大人の関係について学ぶ場となった。大人が望む硬直した子ども観でなく、またしつけや指導の対象としてだけの子どもの姿でなく、「子どもは何者か」を深く考え、愛すべき不思議な生き物として紐解いていただき、大人と子どもの関係を問い直す貴重な時間となった。国連子ども権利委員会で唱えられる、子ども時代の基本的で欠くことのできない「遊び」については第 2 回講演会以降に続く、この研修事業全体にかかる貴重なテーマとなる。「子どもリスペクト運動」を広げたいという参加者の声が多く聞かれた。

第 2～5 回の講演会では山下智也氏、鍋倉功氏により、「発達」と「遊び」に関して、それぞれ「理論」と「実践」の両面から話していただいた。どうしても敬遠しがちで小難しくなってしまう「理論」だが、「実践」と結びつけることにより、具体的にイメージができ、それぞれの現場での子どもとの関わりや取り組みに活かせる内容となった。

学習会では、学童保育指導員が、お互いの「悩み」や「迷い」、そして「願い」や「思い」を伝え合い、助言者からのアドバイスももらいながら交流をはかった。それぞれの現場に持ち帰れる「学び」や「保育内容」はもちろんのこと、「リフレッシュして優しくなれる」「励ましてもらえる」「元氣になれる」と保育へ向かうための「安らぎ」や「活力」を得る場となっていた。

コロナ禍での実施となり、十分な感染対策を

行っても、学童保育所という性質上、参加を見合わせる方もいた。しかし、「それでも子どもの育ちは止められない」という思いで参加された方が多くおり、「これからも学びを継続し、仲間を増やしたい」という声が多く聞かれたことがこの事業の成果と考える。

なお、感染拡大の影響を受け参加者見込み数までに及ばず、参加費からの資金源については自己資金で補填した。

成果の広報・公表

- ・講演会、学習会の内容を含めた事業報告書を作成し、古賀市、福津市、新宮町、および宗像市の一部に 4 月以降に配布する。新体制が整ったところで今後の学習会へのお誘いと共に届けられることが有効だと判断する。
- ・冊子作成及びその内容について、当団体のホームページ等で公開する。
- ・以降の学習会ではこの報告書を再度利用し、学びのための参考資料としても活用する。
- ・古賀市及び近隣に市町村行政の学童保育所担当窓口まで届け、行政主体の学びの場の実施の必要性と実施の提案をする。

今後の展開

学習会で学童保育の現場の状況を共有する中で、研修や他の学童保育所との交流の機会が少ない指導員への「学び」および「交流」の場の提供は重要であると再確認した。子どもの育ちや発達を理解し、指導員が保育への活力やモチベーションを維持しながら、子どもの最善の利益を保証する保育に取り組むためには、本事業の継続は必務だと考える。

今後、これまで参加した指導員らが本事業の企画運営を自主的に行うようになることで主体的・

対話的で深い学びにつなげたい。

また、今回の事業内容をまとめた冊子を各学童に配布することで、新たに「学ぼう」と集う、指導員が増えることを期待している。指導員だけでなく、子どもに関わる様々な人たちが共に学び、子どもへの理解を深め、共同して子どもに関わっていくためには、より多くの人への周知や参加の呼び掛けを効果的に行う必要がある。そのためには行政主導の講演会や研修会が必要であり、今回の事業の成果を行政に届け、その意義を訴えることで、事業の公的化につなげていきたい。